

社長の仕事～その3：人を集める

注文が増えてきたら、或いは増える目途が立った直ちに人を集めなければならない。当社のような製造業では機械に応じてオペレータ、製品に応じて検査員が必要であるが、また顧客対応ができる人、生産管理ができる人、そして設計ができる人なども必要となって来る。それらを専門の担当者として採用する会社もあるが、当社では「兼業」を基本としている。検査員は仕事のウェイトとしては検査自体が多いにしても、洗浄や手仕上げ、梱包・出荷といった前後の作業はもちろん、生産管理、顧客対応、人によっては設計や開発も兼ねている。機械も可能な限り一つの機種に限定しないで、複数の機械を扱えるようにしている。当社の場合殆どが中途採用で、近隣の会社等をやめてくる人を入れることが多い。機械であればどこかの工場で類似の機種を扱っていた人、検査であれば顧客の側として半導体や電気機器に関わっていた人などが中心である。新卒者を基本としている会社が多いが、当社としては世間を歩いてきた経験を重視して、中途採用を中心としている。

100人程度の会社であるから、事務職はいたって少なく、総務、経理、購買、営業事務が一人ずつである。以前は一枠数万円程度の折込広告を利用する事が多かったが、最近ではハローワークもネット化したことで反応が良く、一番のウェイトを占めるようになった。賃金を始めとする待遇は中小企業としては良い方だし、常に社員の為の会社であることを標榜しているのも、人手不足の中にあって何とか必要な人数、人材を確保しているし、離職率もかなり低い。

このようにして受注量に応じた人数を揃える事は急務であるが、それだけでなく会社の組織化を図らなければならない。ビジョンを作りそれを実現していくのが社長の仕事であるが、一人で出来るものではない。心置きなく相談できる参謀的な人材が一人か二人は必要だし、パワーを持った頼りになる右腕、左腕的な人物も必要である。更にそれぞれの専門家が重要で、設計だの品質だの加工だのといった技術分野はもちろん、本業ではなくてもITに詳しい人、安全や衛生に詳しい人、社外に顔がきく人、社内の事情に詳しい人、更には宴会部長的な人など、様々な能力を必要とする。そのため、表向きの職務とともに裏仕事の一つは出来る人材が欲しいところである。

そして一番肝心なのが、しっかりと分業しながらそれらが組織として機能する事である。ある程度は互いに競争しながら、必要な時は協力して事を成し遂げていく。特に当社は兄と私とでやっているのも、(株)高木製作所のP&C社とH&C社という1法人2社制を取っている。守りと攻めを意識しての組織分けであり、今迄は大方うまくいってきたが、これから世代交代に向けては良い物かどうか微妙である。必要に応じて大胆な再編も必要になってくるかもしれない。